

いっぱい考え なんでも本気 いつでもチャレンジ 稲井っ子

籠峰山



着地点 元気のよいあいさつがかわされ、笑顔とキラキラ言葉にあふれる学校

学校HP

<http://www.city.ishinomaki.lg.jp/school/20301900/index.html>HP

学校だより

石巻市立稲井小学校

校長 高砂 宏之

(文責 教頭 石川裕一)

令和6年3月18日(月)

No.12

日本一早い防災アプリ

校長 高砂 宏之

3月8日に臨時集会を開きました。東日本大震災から3月11日で13年目となり、小学生は全員、大震災後生まれの児童ばかりになりました。最近の報道によると、東日本大震災が起きた日にちや、発生時刻がわからないという子も増えているようです。このままでは、どんどん東日本大震災の事実が風化してしまいかねないので、今回の集会に向けて先生方にもアンケートを取って、先生方からも話をしてもらおうと思いました。

アンケートの質問内容は概ね次のような内容でした。

○震災当時の年齢とどこで何をしていたか。 ○震災後困った事は何か。 ○震災後とても助けられたことは何か。

○避難に備えて準備していることは何か。 ○子供たちに伝えたいことは何か。

アンケートから分かったことは、震災当時小学生だったのは武山先生、村上先生、及川先生の3人でした。中学生だったのは齋藤先生、加賀谷先生の2人、高校生は吉田先生1人、大学生は川畑先生1人、その他の先生方はすでに働いていました。先生方の中で、大変な経験をされた3人に話を聞きました。阿部昭彦先生は震災当時、門脇小学校で4年生の担任をしていて授業中でした。地震後避難訓練通り、日和山に児童を引率し津波を逃れ、引き取りに來られなかった児童とともに数日間石巻高校で避難生活を送ったとのことでした(新沼先生もこの時門脇小学校の5年生の学級担任をしていたそうです)。次に、千葉孝洋先生に話を聞きました。千葉先生は釜小学校で1年生の担任をしており、掃除が終わり子供たちを返そうとしていた時だったそうです。津波で学校が浸水し、流された近隣の方を救うことができなかつたり、保健室で電気がつかない中、出産された人がいたり大変だったとのことでした。3人目は村上卓弥先生に話を聞きました。村上先生は当時南気仙沼小学校6年生でした。学校は海のすぐ近くで、2階まで津波で浸水し、屋上まで避難し難を逃れたそうです。しかし、自宅も海の近くだったので、跡形もなく流されてしまったそうです。他の先生方の話も聞きたかったところですが、時間の関係で、学級などで聞いてもらうことにしました。

震災後困った事として最も多かったのは、水・電気・水道などのライフラインが止まってしまったこと、次いで、家族の安否がわからなかったことや、情報が入ってこなかったこと、ガソリンがなく車での移動が難しかったことなどが挙げられました。

助けられたこととしては、日本中、世界中から支援物資を送ってもらったり、ボランティアとして、がれきの撤去や泥かきをしてもらったり、親切にしてもらったり、自衛隊のお風呂に入れてもらったり、ここに書ききれないほどの支援をいただいたことが挙げられました。

避難に備えて準備しているものとして最も多かったのが、非常食や水や懐中電灯などの防災グッズで、次いで、避難場所の確認などが挙げられました。

子供たちに伝えたいこととして挙げられたのは、とにかく**命を守ることやすぐ逃げること**などでした。逃げる経路の確認や、家族との連絡方法の確認、助け合いの気持ちを持つなども挙げられました。

子供たちは集会の最中、本当に真剣に聞いていました。この集会の中で、体育館の壁に貼ってあるパッチワークについての話をしました(写真参照)。これらのパッチワークは「できることをできるだけプロジェクト」の方々から今年いただいたものです。津波で被災した石巻市の呉服店でヘドロまみれになった着物を何度も洗いリメイクした着物から出た端切れを50センチ四方の布に入れ、家庭で余った布を組み合わせで作成したものです。震災から13年経ってもこのように心を寄せてくださる方がいるというのはうれしい限りです。ぜひご家庭でも、震災当時の大変だったことや、助けられたことや、避難場所や避難経路の確認、連絡方法の確認などを行い防災意識を高めていただくようお願いいたします。また、能登半島地震で苦しんでいる人々にも心を寄せていきたいものです。

話は変わりますが、能登半島地震でどの防災アプリよりもいち早く地震を知らせたアプリがあります。その防災アプリは「**特務機関 NERV (ネルフ)**」です。現在日本で最も早い防災アプリと言われています。ゲヒルン株式会社が制作したアプリです。ゲヒルン株式会社はこのアプリを開発したことにより、経済産業省主催の令和三年度情報化促進貢献個人等表彰



で、経済産業大臣賞を受賞しています。この会社の代表を務めているのが石森大貴（いしもりだいき）さんと言います。石森さんは石巻市渡波小学校出身です。5・6年生の時に私が担任しました（以下大貴君と書きます）。稲井小の今の5年生が4年生の時に大貴君に来てもらい、防災についての話をしてもらいましたので、記憶に残っている子もいると思います。中には、防災アプリネルフを登録したという子もいました（ネルフやゲヒルンなどのネーミングは大貴君が新世紀エヴァンゲリオン好きでつけたもので、エヴァンゲリオンの版元からも許可を得ています）。

大貴君は小学生の時からパソコンに精通していました。わたしはその頃やっとパソコンを使い始めた時期で、いろいろと教えてもらいました。パソコンが不具合を起こした時に直してもらったことも時々ありました。彼は放課後や休日にもパソコンをしていることが多く、体の線が細いことを心配した私は、少し体を動かした方がいいのでは、というようなことを言ったこともありました。しかし、彼は校外学習で（久米幸太郎の仇討の石碑を見に）牧山へ10 kmくらい歩いた時に、スポ少でバリバリ運動していた子がへばって行く中、平然としていました。運動する体力と長く歩く体力は結構違うものであると感じたのと、人は見かけによらないものだと見直しました。その後石巻高校に進みプラスバンド部に入り、筑波大学に進学し、大学在学中に会社を設立しました。企画力があり、古い価値観に縛られることなく、新しい時代を切り開いていく柔軟性があります。男女分け隔てなく親切で、人を引き付ける魅力があります。20歳になった時に同級会を開いた時も、クラスメートにこまめに連絡を取り、20人以上を集め（確かこの学級は38名だったと思います）飲み会を開きました。小学校時代の話や、現在の様子などについていろいろ聞くことができ盛り上がりました。ネクタイまでプレゼントしてもらいました。今でも大切に使っています。

「教職研修」という教育界ではかなり有名な雑誌の2024年3月号に大貴君への巻頭インタビューが5ページにわたって掲載されました。普段私はこの雑誌は買わないのですが、思わず2冊買ってしまいました。この特集の中に大切なことが書いてあります。少し長いですが引用します。



災害で通信網や電源が失われれば、情報は受け取ることも送ることもできなくなります。そうした状況下でも、周囲をよく見て想像力を働かせて行動できる力が必要です。また、情報を提供するシステムには技術上の限界があります。たとえば、東日本大震災では、当初「マグニチュード7.9」「津波の高さ6メートル」との速報が流れましたが、実際にはこれを大きく上回っていました。それは各地の地震計が振り切れたためです。情報提供は、そうした技術的限界を織り込んだうえで行うべきですし、受け手側も情報を過信せず正しいリテラシーを持って行動してほしいと思っています。

大貴君の素晴らしい所は、なんといっても、世のため、人のために役立とうという気持ちがあることです。愛知県でしばらく前に台風の被害で浸水した時も駆け付け、復興事業に当たったと聞きました。科学技術の進歩は人々の生活を便利で豊かにしてくれるという良い面がありますが、使い方間違えると、人を傷つける道具となってしまうこともあります。世のため・人のためになることを心掛けていきたいものです。

1年間稲井小学校の教育活動に多大なるご協力をいただき誠にありがとうございました。大変読みにくい文字だらけの学校だよりをお読みいただきありがとうございました。私も役職定年ということでちょっとほっとしているところです。来年も稲井小学校の教育活動へのご支援をよろしくお願いいたします。

4月の主な予定	
～7(日)学年始休業日	
8(月)着任式、始業式	
9(火)入学式	
10(水)1年4校時限（～17）	
17(水)1年生を迎える会	
18(木)全国学力調査（6年）	
交通安全教室	
19(金)学習参観日、PTA総会	
地震津波想定避難訓練	弁当日
22(月)小中授業参観交流	
23(火)全校4校時限 標準学力調査（国）	
24(水)全校4校時限 標準学力調査（算）	
※居住地確認	23～25日
26(金)全校5時時限	弁当日
29(月)昭和の日	

各種表彰	
管内書きぞめ展毛筆の部 部会長賞4年 特選 3年 特選 4年 特選 5年 金賞 3年 金賞 4年	石巻市スポーツ少年団交流大会 3、4年の部第2位4年
管内書きぞめ展硬筆の部 部会長賞4年 特選 4年 金賞 3年 金賞 4年	川をきれいに図画コンクール ポスター部門 銀賞 3年 銅賞 1年
	作文宮城 入選 6年
	緊急時連絡先 学校 0225-91-2114 学校携帯 070-1306-4198